



1961-1968

# 少数精鋭で苦難の時代を乗り越えた。



## サッカー部最悪の時代？

24期・25期は六甲サッカー部にとって最悪の時代であった。というのも人数が不足し大会に出場出来る状態でなかった。私自身の記憶をひもとくと中学時代24期は荒井、多田、堤の3名でしたが25期はかなりの人数がいたと思う。しかし佃先生のきびしさについていけば高校で残ったのは金田君一人であった。私も中学3年では25期を含めたチームで各大会に出場常に2～3回戦止まりだったと記憶する（※私自身ハーフタイムの時毎試合佃先生になぐられました）。高校に入り22期が六甲

では異例の事3年の夏までガンバリ、団体予選でベスト4に残った。しかし夏以降、23期・24期の合同チームに戦ったがこれも2～3回戦止まり、高校2年の時は人数不足で大会に参加出来ず私自身これでは納得出来ず、高校3年の秋まで26期と共にプレーした当時神戸高校全盛の時代であったが各大会1年生（26期）中心のチームでしたが善戦したようにおもう。

私のわずかな記憶で24期・25期各人に紹介をします。（まちがっていたらごめんなさい）

24期 多田（中学で転校） バックス  
選手キック力有り

堤（高校1年で退部） 小柄ながらテクニック有り、プレスキックが得意  
大西（高校から入部） 堅実なボックス、あまりうまくなかったが基本に忠実

荒井 天性に素質有り、抜群のシュート力有り

25期 金田 体の固いボックス、上手でないが真面目

[大西 孝雄]

